障害の考え方/表記について －“障害”という言葉に込める、わたしたちの思い －

わたしたちは、「障害（がい）のある方々に“害”はない」という考え方に基づき、“障がい”という表記の使用をはじめ、各施策を進めてまいりました。その考えは今も変わるものではありません。

そのうえで、社会は急速に変化し、多様性が一層広がり、個人の尊重がより重視される時代において、個人の中ではなく、言葉や心、制度、文化など、個人と周囲の間に存在するさまざまな“壁”が、これまで以上に課題認識されるようになってきました。

そうした“壁”が、誰かの挑戦や可能性を妨げる要因となっているのであれば、それは“害”と捉えることができ、わたしたちは、この課題に正面から向き合い、さらに取組を進めたいと思います。（※）

一人ひとりの違いを互いにリスペクトし、学び合い、支え合い、多様性とともに生きていく。わたしたちは、「すべての人に開かれた垣根のない世界」の実現に向けて、これからも挑戦を続けてまいります。

※上記を踏まえ、弊社では、表記について「障害」に改めてまいります。